

## CATV 出現の社会的背景

単元社会の解体と多次元社会誕生

田村 明 横浜市企画調整室

### CATV はなにを変えるか

CATV が都市における新たな情報 メディアとしてクローズ・アップされつつある。正直なところ その正体はまだ十分明らかにされていない。

憶測 推測 将来の可能性を含めて議論は発展するが いったいこの新しいメディアがどのような役割を果たし それによってつくられる社会が どのようになるのか正確なイメージを持ちうる人はほとんどいないであろう。

しかしそれにもかかわらず CATV はなにかを変えつつある。それによる 変わり方は決して急スピードではないし広範囲でもない。ゆっくりと局部的に底の方から変えてゆくのが CATV である。これまでの情報媒体はラジオにしろ テレビにしろかなり急速にネットワークを広げていった。しかし その広げ方は いわば上からの広げ方である。ラジオやテレビは 大声でわめきたてるのにとえられる。これらはたちまち全国に普及した。北海道の先も先 利尻島までわたっても 話題になるのは NHK の帯ドラマであり 東京都知事選挙である。それは この狭い日本列島をまたたくまに一色にぬりつぶしてしまう。そこにどんな秘密のすき間も許さないほど日本列島というキャンバスに入念にぬりたくられてしまっているのである。

しかし CATV はちがう。それは決して大声にはわめきたてない。それぞれの仲間に ひそかに合図をし ささやき合う。一色に灰色にぬられたキャンバスに 鮮明なヴィリジャンの滴をおとしたり ひとはけプルシャン・ブルー帯を描いたりするのである。しかし、いまはまだ その色さえあらわれていない。CATV は むしろ灰色の底に沈んでいる。いつかの別の光があてられたとき それらがいつせいに鮮かなそれぞれの色彩を現わしてくるかもしれない。

CATV は一見なんの変哲もない代物である。同軸ケーブル使用による TV の有線送信。アナクロではないかという人さえもいる。そうだろう。1896 年マルコニーの無線通信以来 ラジオ TV 電磁波は地球を駆けまわった。通信衛星の出現がそれをいっそう助けている。しかも ラジオの長波 中波から テレビの超短波 テレビ中継やレーダーのマイクロ・ウェーブ さらにミリ波まで開発されようとしている。そればかりか レーダー通信まで研究されている現在である。無線による空中利用は まさに無限ともいえる発展をしている中で なにをいまさら有線による伝送をと言いたくなるひとびとも多いだろう。

また一方 これまでの通信 そのネットをいかに広げるかであった。とくにわが国の場合にはそれがひどく 新聞は発行部数 100 万を誇る全国紙という 世界的にも特異な減少

であり ラジオ テレビもいかにして地域を広げネットを組むかに重点がある。それを局部的 一地域を対象にした CATV ではアナクロだと感じるわけであろう。それに CATV は機能的にはまず難視聴対策に始まった。MATV とよばれるビルの屋上にある共同アンテナと類似のものでありことさらに新しいものではない。

このように一見アナクロニズム時代逆行とさえ思われる CATV がいったいなにを変えつつあるのか。それは確実なところは 次の時代に聞いてみるほかはない。しかし それは決して夢物語の未来ではない。アナクロともみえるほど確実な技術ベースの上に立っているのだからから 今日からすでに始められている。ただ これにどのような新しい機能が付加されるか あるいは新しい役割を追加されるかが将来の問題である。

現に CATV は初めは Community Antenna Television とよばれる難視聴区域の対策のための共同アンテナであった。性能のよい受信設備で受け 適当に増幅して送ってやるだけだったのがこれによって きわめて正確な画像がえられ いままで混線して使用不能であった中間チャンネルが利用されるようになったのである。そして初めの難視聴対策と 次元の異なる 中間チャンネル利用の自主放送を可能ならしめた。したがって CATV は Cable Television とよばれ 当初の難視聴対策という意味はうすれてきている。今後さらになにがとびだすか それは将来である。しかし確実に言えることはまだまだ多くの可能性を有しているということである。いつか C の意味がまた変わってゆくかもしれない。いつも変わりゆく可能性を有するという意味では それは Changeable TV とよばれてもよいかもしれない。

## 情報化社会の変貌

現代は情報時代とよばれ 現代都市はまた情報都市とよばれる。現代社会は情報化社会である。情報化社会はマス・メディアによる情報の大量供給処理情報の均質化 同時性化の進行であると考えられている。たしかにそれは現代のひとつの大きな流れである。しかしその故にこそ別な反作用が働いている。すなわちひとつは情報の大量供給にたいする選択性と自己主張であり 第 2 は均質化にたいする多元化多様化であり 第 3 にはフォーマライゼーションにたいするインフォーマル・コミュニケーションへの欲望 さらに第 4 には情報化社会と虚像化から脱する参加欲望の増大である。

このような傾向は情報化がすすめばすすむほど顕著現われる。もっとも経済的にも先進国であり 情報化のいっそうすすんだアメリカでもっとも多数のヒッピーを生みだしているのはこの現象を物語っている。かれらのつくりだしている LSD やマリファナによる幻想社会はドラッグ・コミュニティともよばれるもので きわめて不自然ながら完全に個人的な独自の情報世界を自らの 意識の中につくりだしているのである。それは大量均質情報からの逃避であり 反作用であり またある意味では現代の情報化社会への挑戦でもある。

わが国ではアメリカほど極端にまで達していない。しかし それなりに情報化社会の波におそれを抱くひとびとも意識的無意識的を問わず発生している。バー クラブ 喫茶店 ス

ナック それにアジト仲間を求める。人間は均質化されナンバー化されることに本能的なおそれをもっている。人間というこの 36 億人のすべてが相違した容貌 体格 性格 行動をもった生物 それがすべて均質化されてしまうことの方が むしろ不自然である。アメリカ人もドイツ人もまたベトナム人もタヒチ人もすべてが異なっている。そのそれぞれが異なっていることに意味がある。

もしひとりの人間がまったく同じ知識をもち 同じ発想をし 同じ行動をする相手に会ったなら まったく自分と同じ容貌の人間に出会ったと同じくまったく不自然であり最大の驚異である。

すべてが異なるがゆえに人間は存在する。もしまったく同じ人間であるなら その人間同志が接することからはなにも生まれない。それぞれに異なる知識と発想と行動様式をもつがゆえに情報は成立し 人間はおのおの収穫をえ 新たな創造がそこに生まれる。男と男 女と女 からはなにも生まれないように同一化は創造の敵でさえある。

情報が価値をもつのはこのように相異なるからである。情報化社会は 情報の多量化と均質化を指向するが これは 情報化の無価値化につながる自己矛盾を内包しているのである。情報化社会が永続するためには新たなメディアによる救いが必要なのである。

## CATV の登場

CATV はこれまでになかった情報の世界である。それは対象範囲の広さという点からみればマス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーションとの中間に位置することになる。

それは情報化社会の変貌により生じた反作用的要求と情報化社会のもつ即時性集団性などの両者をお互い兼ねていっているのである。CATV は一方において情報の大量供給が可能でありながらまた地域性という範囲では自己主張と選択の可能性を留保したものであり 全国的情報の均質化にたいする地域的多元化の要求に応えるものである。またフォーマル・コミュニケーションも行ないながらそれ以外のインフォーマル・コミュニケーションを行なえる余地を残している。そして情報化の虚像にたいして必要な端末機をすえることにより受信側が同時に発信者たりうる双方向性をそなえ 視聴者の参加欲望の充足を可能にしているのである。マスの世界からの離脱をのぞみながら かつといってドラッグ・コミュニティにまでとびこむことができない大多数の大衆にとって CATV は新たな世界であり ひそやかな自己主張を回復しうる場となるかもしれない のである。

対象範囲でみると これと類似したメディアとしては 地方新聞 市町村等自治体広報 地域団体報などがある。地方紙を主体におくアメリカの新聞はやや類似のものが考えられる。しかし 一般に日本の地方紙は勢力が弱く しかも大体県単位になっているものが多い。

CATV がこれらと異なるのは なによりもまず TV という画面をもった媒体であり その地域範囲がケーブルという物理的な関係によって結び合わさっていることであり それは同時性 即時性をそなえており しかも逆送信可能という相互性をそなえていること

である。CATV は先にあげた類似物の機能を十分果たしながら これらとの相違をもつ。それはかりに対象地域が似ていても 情報機能としてはかなり決定的な相違となるだろう。

### CATV コミュニティ

近代大都市ではコミュニティは壊滅したといわれる。人間の活動範囲は拡大し 生活圏は交錯している。職場と住居は分離し 住居は 男子にとって単なるネグラ以上の存在でなくなってしまう。 地域的问题是決してなくなったわけではない。学校や保育所の問題 病院や保健の問題 ゴミ処理や下水の問題 道路の舗装や交通安全の問題等々 地域的にしか解決をはかれない問題は山積みしている。ところが居住者の方の生活実態が地域性を離れて拡大しすぎてしまったのである。

一方 新しいコミュニティの再建が叫ばれている。これらの地域的問題を解決し ひいては市民の生活を守るために なんらかのコミュニティの回復が必要だからである。現住のところ この大都市では必要性は認められながらもコミュニティ再建へのテコを見出だしかねている。

このようなきにあたって CATV は 情報共同体をつくり出す可能性をもっている。それは 地域への帰属意識とか 郷土愛とかいったメンタルな要素ではなく 具体的なケーブルによって連結 され 同一の情報を共有するフィジカルな世界であるために 現代人にとっては抵抗なく実体として認められ 参加しやすい社会である。一見情報という目に見えないものを媒体としながらも それがビジブルなケーブルによって結ばれているこの共同体は 非可視的であると同時に可視的であるという現代的二重構造をもっているのである。共通情報を共有ししかも地域的限定性を有するという CATV の世界は 新しいコミュニティの姿を予測させる。

流動化と広域化という嵐の中でのコミュニティの成立は 単純な行政区画によるわりつけや学校等の地域的施設だけでは困難である。

行政区画はもはや生活の実態上の意味を持ちにくいし 地域的施設はこれに比べればかなり意味をもつとはいうものの 限定された年齢層の間の問題でしかない。大都市における地域との結びつきは情報共同化という新しい連帯を必要としているのである。

情報コミュニティの成立をさらに助けるのは 相互交信が行なわれたときであろう。共同情報は 地域的参加のもとでしかもリアル・タイムで行なわれる。このような相互性が可能なきに コミュニティはより自発的なものとなる。それは政治的には直接民主制を情報世界の中で可能ならしめる契機になるだろうし 社会的には 茶の間に広がる映像と音による地域社会なのである。

このようなきに 従来の自治体も その枠をはみ出さざるをえなくなるであろう。都市や自治体は 情報手段を通じて より身近な実体として感じとられる。自治体ももう一度市民によりつくりなおされねばならないし またつくりかえられるであろう。

CATV の世界(1)――反管理社会

新しいコミュニティが再建されたとき人は 管理社会化にたいする抵抗の拠点を発見する。情報化社会=管理社会としてひとびとは 職場において 消費活動において また趣味的行動や レジャー できさえも管理される。この傾向は現在のところ ますます決定的である。管理社会に抵抗する唯一の方法は これまではそのような社会からの脱出逃避であった。

情報からの遮断という時代の流れからの退行による方法は きわめて消極的である。CATVの世界は管理社会にたいする第2の抵抗点の可能性を見出だそうとするものである。

もとより CATV もまた地域的管理社会をつくり出す可能性はある。しかし それは全国的ネットにたいしては ひとつのアンチ・テーゼであり 情報化による管理社会にたいして情報化による非管理社会をつくり出しうるものである。CATV によって そのような姿が可能になるためにも 前にのべた CATV による情報コミュニティの成立が必要である。少なくとも そこでは 管理されない新しい情報をつくり出す可能性があるからである。

CATV のこのような世界をつくり出すには その網があまりに広すぎてはいけない。経済的限界としての最低を確保する必要はあるが せいぜい数万戸から数十万戸ほどのものが それぞれその個性を競い合うのが望ましい。CATV が経済原則だけで大量化すればその持ち味が失われてしまう。各 CATV 局の独自性のもとに さらにブロック別のネットを組むことは考えられる。これは異なる個性による集団化で グループとしての意味が生まれた。しかしひとつの枠を単純に拡大することは 個性を圧殺してしまう画一化であり CATV の自殺行為になりかねない。

## CATV の世界(2)-ソフトな都市

CATV は また都市のフィジカルな形態を変える可能性がある。情報チャンネルが増大したために人間の行動から不必要なものを切り捨ててゆくことができる。たとえば買物は CATV により実物見本で地域の商店から示される。主婦は 必要数量を言ってやれば あとは自宅に配達される。学校も 単なる知識教育の部分は CATV により代行される。また呼究者や事業家は 必要なデータを データバンクと結んだ CATV から得ることができる。地域広報や地域の案内はもちろん CATV によって送られるし 緊急連絡にもあてられる。

ここでは映画さえ あらかじめ希望をとり入れた番組が送られてくるし その数も多いから とくに大スクリーンを望まない限り ますます映画館は不要になる。

この町では不必要な人や車の交通は情報の流れによっておきかえられるから道路を中心にした都市づくりは ケーブルを主体とした新しい都市づくりに変えられる。実際幅員 10メートルの道路を流れる情報量は 数ミリの同軸ケーブルにおさめられてしまう。それでも道路は必要だが しかし その道路はみたところ比較的閑散としている。しかし 見えないケーブルをとおして この町は活発に 動いているわけである。

将来は株の売買はもちろん 投票もこのケーブルで行なわれ ひとつの企業できさえ その大部分の機能を 自分たちの CATV ネットにおきかえてしまうかもしれない。

道路と建物というハードな町は 実は最低限のハードな要素であるケーブルとこれを流れるソフトな情報によって構成 されるようになるのである。

#### CATV による多次元都市

CATV のネットは今後ますます複雑化していく。ネットは重複的にはりめぐらされていく可能性もある。アメリカでは魚屋の夫婦によって経営されているミニミニ CATV 局もある。また特殊なビジネス証券またレジャー用など大小多数のネットが無数にはりめぐらされたとき都市は多次元情報都市となる。単元的情報化は相互チェックのコントロールをもたない情報としては 危険な状態である。第 2 次大戦の開始時点や戦争ちゅうに内閣情報局による単元情報によるあやまった情報に限定され 状態判断を強いられた記憶はわれわれに単元的情報の危険を教える。

このような中央統制的一元情報にたいして 多元的情報は一種の情報のゲリラ化である。そこには どのような情報がどのように現われるかわからない。しかし現代の錯綜の中で唯一の情報にたよることはかえってことの実見を見失いがちである。実見はひとつであるとしても情報は自由に多様化している方がよい。それによると混乱はあっても一元化による情報の操作よりはるか に安定作用が働くからである。

CATV による多次元情報都市が生まれてくれればそれは第 1 には情報に支配されるよりは情報を利用し情報をつくり出す創造性のある人間を育てることになり また人間の個性をのばしてゆくことになるであろう。そしてオーソドックスな情報とローカル情報とゲリラ的情報の共存の中で人間は管理社会にふりまわされず かえって相対的に正しい情報を自らの判断でつかむことが可能になる。CATV による都市とはそのような人間性の回復と創造性と情報の主体的選択性を可能ならしめるものなのである。